

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。立秋が過ぎたとは言え、まだまだ猛暑、酷暑の夏真っ盛り。くれぐれもご自愛ください。

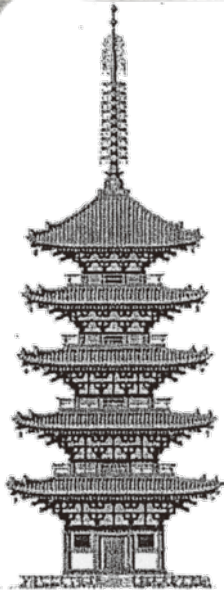
今年のかかわら版は**実録・覚王山日泰寺縁起**をお伝えしています。京都に仮奉安された**ご真骨**(世界的に本物と認められている仏舍利)。いよいよ最終奉安地の選定です。

★日本大菩提会

タイに行った**奉迎使節団**は、ご真骨を贈与される際に**チュロンコン国王**に大事な約束をしました。帰国後に**ご真骨奉安**のための**超宗派寺院**を創建するという事です。

満了した国王は**ご本尊**としてタイの**国宝**である**釈尊金銅仏**を下賜。さらに、**寺院創建**に際して**木材**の寄進も申し出。超宗派寺院創建の約束、果たさないわけにはいきません。

使節団がタイに到着した**一九〇〇年(明治三十三年)六月十一日**、日本ではまさしくその日に**帝国仏教会**



を改組して**日本大菩提会**を創設。会則第二条は次のように記しました。曰く「本会は**釈尊**の御遺形を奉持するため**覚王殿**を建築するを以て目的とす」。

お釈迦さまは「**覺りを得た王**」という意味で別名「**覺王**」。したがって、新たに建設するご真骨奉安寺院は「**覺王殿**」と呼ばれました。

日本大菩提会は、**覚王殿**に関して敷地**十萬坪**以上、経費**一千万円**以上という**壮大な構想**を打ち上げ。現在の**東本願寺**の敷地が**二万二千五百坪**、**十萬坪**の土地は容易には確保できません。

建設費の**一千万円**は膨大な金額です。例えば、米の価格(当時約**一円**、現在約**三千円**)で比較すると**三千万円**、入浴料や**コーヒー**(いづれも当時約**二銭**、現在約**五百円**)で比較すると約**二千五百億円**、**会社員の初任給**(当時約**十円**、現在**二十万円**)で比較すると約**二千億円**です。

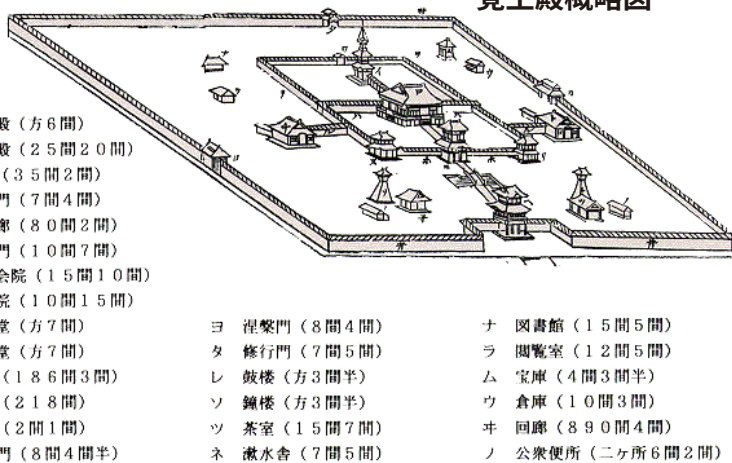
比較の基準にもよりませんが、いづれにしても当時の**一千万円**は現在の**ほぼ二〜三千億円**に相当する金額です。

★伊藤満作

使節団がタイを訪問している間に、**帝国仏教会**は**覚王殿**の**予定平面図**の作成を依頼しました。

依頼先は**名古屋**の設計士**伊藤満作**。真宗大谷派と関係が深く、尾張藩の**工匠棟梁**であった**伊藤平左衛門**の一族です。ご真骨が**長崎**に到着した**七月十二日**、**縮尺千五百分**の**一の平面図**が完成しました。

覚王殿概略図



- イ 覚王殿 (方6間)
- ロ 講堂 (25間20間)
- ハニ 廊下 (35間2間)
- ホ 朱雀門 (7間4間)
- ヘ 同歩廊 (80間2間)
- ト 菩提門 (10間7間)
- チ 護法会院 (15間10間)
- リ 衆会院 (10間15間)
- ヌ 東祠堂 (方7間)
- ル 西祠堂 (方7間)
- エ 廊下 (186間3間)
- ソ 瑞垣 (218間)
- ワ 唐門 (2間1間)
- カ 苑心門 (8間4間半)
- キ 涅槃門 (8間4間)
- ク 修行門 (7間5間)
- ケ 鐘樓 (方3間半)
- コ 鐘樓 (方3間半)
- ク 茶室 (15間7間)
- コ 漱水舎 (7間5間)
- ナ 図書館 (15間5間)
- ニ 閱覽室 (12間5間)
- ハ 宝庫 (4間3間半)
- ニ 倉庫 (10間3間)
- ウ 回廊 (890間4間)
- キ 公衆便所 (二ヶ所6間2間)

★外山義文

ご真骨が**京都**の**東山妙法院**に仮安置されてから**一年**が経過。タイの**チュロンコン国王**に約束した**覚王殿**、すなわち**超宗派寺院**の**建設地**は一向に決まりません。そんな中、駐タイ領事**外山義文**は

チュロンコン国王より再三再四、日本での検討状況を尋ねられました。進展が捗々しくないのでから、**木材**や**資金**を早く寄進したい**チュロンコン国王**はご立腹。また、**国王**が計画している**仏教図書館**に、日本の各宗派から寄贈することになっていた**書籍**の提供も進んでおらず、**日本**として非常に**面目ない状況**に陥っていたそうです。

一九〇一年(明治三十四年)十一月二十六日、業を煮やした**外山領事**は、**大日本菩提会**の**会長村田寂順**と副会長**前田誠節**に**書簡**を送り、次のように申し伝えたそうです。曰く「**国王**との約束の重さを自覚し、**日本仏教徒**の恥とならぬよう、**早急**に対処されたい」。

折しも**翌一九〇二年(明治三十五年)秋**、タイの**ワチラーウット皇太子**(後の**ラーマ六世**)が**米**国から**帰国**の途上に**日本**を訪問することになりました。

帝国仏教会は**皇太子**来日までに、**建設地**だけでも決定しておかねばならないという切迫した状況に追い込まれました。お尻に火がついた**仏教界**。一九〇二年**(明治三十五年)一月**、各宗派**管長**による**会議**が開かれ、**奉安地選定委員会**を設置。候補地を調査、選定するように命じました。

★名古屋浮上

さて、いよいよ候補地として**名古屋**が浮上します。**吉田禄在**、**加藤慶二**などの**尽力**によるものです。詳しくは来月。乞ご期待。

